伊佐見・佐浜・浜人見・大人見・ゆうおおひとみ・瞳ケ丘・緑ケ丘

歴史すごろく

愛称標識巡り

START スタート ふりだし

※ 伊左地

鎌倉時代の古文書に見られるが、由来は不明。縄文から平安時代の遺跡が10か所以上ある。江戸時代旗本屋敷代の知行地「伊左地村」。1889年伊左地・佐浜・大人見・古人見が合併し「伊佐見村」。1956年に和地村と合併し「湖東村」。1960年に「浜松市伊左地町」。

1 安養ケ谷 伊左地

古くは「あんそふや」。安らかに、豊なるが語源。付近の隠ケ谷との関連から、戦国武士を葬った所と考えられる。

武士を供養する！ 1回休み

2 隠ケ谷 伊左地

三方原合戦で、徳川軍が隠れた場所と伝えられる。付近には家康が休んだという農家がある。

家康から ぼうびをもらう！ 3つ進む

3 猿焼 伊左地

天保8年の絵図では「さるやき」。近くの仮屋坂と関係があると思われる。狩りをした猿を焼いたのか、何か焼けたのか、わからない。

猿にひっかかれた！ 1つ戻る

4 切林 伊左地

隣ケ谷と同時代の語源なら、戦略のため敵の中に攻め入る道路を造るため林を切り開いたか。

5 仮屋坂 伊左地

戦国時代の武士たちが狩りをするために仮住まいとして小屋を作った場所。近くにはやじりの出土した仮屋坂遺跡もある。

狩りを楽しむ！ 1回休み

6 大山塚 伊左地

天保8年の絵図では「大山塚新知」と記され、塚を切り開き畑にしたと思われる。「古新田、ずんべり、いのしろ、まやし、西古新田」などの呼び名がある。

7 花ノ木 伊左地

土地の人は「花軒」とも呼ぶ。花のように美しい里であったとも考えられる。

美しい里に元気が出る サイコロを振り出た目だけ進む

8 阿願ケ谷 伊左地

安層ケ谷に対して、こちらは身分が高く尊い方を葬ったか、お祀りしたと思われる。隣接の花の木や若宮との関連も考えられる。

9 若宮山王 伊左地

徳川家康の長男（信康）が命を落とされたことを哀れみ、お祀りしているといわれる。

10 御高札 伊左地

天保8年の絵図では、伊左地の中心にあたる場所、法度などを掲げる高札があった。

「発げ」とのおふれが出た！ サイコロを振り出た目だけ進む

※ 緑ケ丘

1971年に84世帯で緑が丘平和団地が誕生し、1072年には自治会が

40 島道 緑ケ丘

三方原台地の西はずれに突き出た島のような場所だったため、この名が付いたと言われる。伊佐地・佐浜の人々が、東に向かう主要な道だった。

※ 佐浜

1640年代の記録に「佐浜」が出る。「佐」を「左」と書かれた物もあり、浜名湖の「左」の「浜」ととの説もあるが、由来は不明。行政の変遷は、江戸期「佐浜村」、1889年伊・佐・見で合併し「伊佐見村」、1956年に和地村と合併し「湖東村」、1960年「浜松市佐浜町」。

11 白山鼻 佐浜

昔の地図には景勝地の印が付いていた。頂上に白山宮という正福寺に由来する地蔵堂が建ち、この地名が付けられた。

12 西平坂 佐浜

台地にトラックや耕運機で上がれる道が欲しいとの願いで、浜松市に原材料を頂き、住民達が1964年から5年でつくった汗の道路。

道ができ便利になった 2つ進む

13 お宮坂 佐浜

1653年建立された八柱神社への坂で、急なため鉄の鎖に頼って登った。鎖は神社に残っている。1919年に坂は現在の場所に付け替えられた。

坂で転んだ 1回休み

14 新道坂 佐浜

平の台地に通じる新しく作られた道路のため、こう呼ばれた。

15 ナウマン象発掘の地 佐浜

1987年から1922にかけて、浜名湖埋め立て工事の中で、佐浜町る地でナウマン象の牙・歯・骨格などが発見された。

ナウマン象で全国に佐浜が知られた！ 2つ進む

16 庄平坂 佐浜

庄平方面の田畑に通じる道路で、昔は人1人通るのがやっとだったが、拡幅され1987年にはガードレールの付いた舗装道路になった。

17 本村坂 佐浜

佐浜町の中心の本村にあるため、こう呼ばれた。生活道路だったため、拡幅整備などは村人の奉仕だった。馬頭観音があり初午の時は賑わった。

18 いろは坂 佐浜

曲がりくねった坂道なので、浜松市がこう名付けたと言われる。屋崩れで通行不能になった1969年には住民の奉仕で修復した。1990年に改良拡幅された。

19 苗代 佐浜

この一帯は、稲の苗床として農家が苗代を作っていた。1968年の配管工事で水利も整った。

20 鴨ケ平坂 佐浜

ビニールハウスによる農業が広まった鴨ケ平に続く坂が1966年に整備された。

D 潮避道 佐浜

昔、海岸沿いの道は台風の時に水に浸かったり、風が強く歩くのが困難だったりしたため、少し高い所に道がつくられた。佐浜町の集落の間をぬって続く幅60cmほどの細い道だったが、現存しない。

※ 大人見

「人見」の地名は古代からあり、中世には「大見郷」と呼ばれた。「大人見」は、人見の中でも大きな集落だったためか、江戸時代は旗本松平氏の領地「大人見村」。1889年伊・佐・見で合併し「伊佐見村」。1956年に和地村と合併して「湖東村」。1960年「浜松市大人見町」。

※ 腰掛け岩 大人見

八幡宮境内にある岩。小堺藩（日本武尊）が東国征伐の途中で立ち寄られ、この岩に腰掛けて休憩されたと言われる。

21 上向坂 大人見

光勝寺から八幡宮へ行く坂道で、この辺りの地名を上向（神向）と言うことから名付けられた。参宮道とも言う。

22 切通し 大人見

浜名湖岸から台地に上がる道が限られていたため、山を切り開いて道を通した。

便利な道ができた！ 2つ進む

23 谷向坂 大人見

瞳ヶ丘団地北側の坂で、谷向とは付近の地名が言われているが定かではない。

24 内山坂 大人見

1953年に住民の奉仕作業で造った養魚場から台地に上がる坂。佐浜の手拓に功績があった内山又十・竹蔵親子を讃えて名付けられた。

25 神楽坂 大人見

金山神社のお祭りに神楽舞が奉納され、人々で賑わったため名付けられた坂。

神楽を見る！ 1回休み

26 大平道 大人見

切通し、上向坂をとおり八幡宮を経て平の台地に向かう道路で、周辺の地名から名付けられた。参宮道とも言う。

27 淳草道 大人見

自動車学校南の山沿いの道で、戦後に造られた。道路沿いの小川を「浮き草川」と言うため名付けられた。

28 農免道 大人見

1971年に、大人見から伊左地・神原・神ケ谷町を経て、富塚方面に通じる幹線道路が整備された。

広い道ができた！ 2つ進む

29 第一鳥居跡 大人見

如内に石の塚と鳥居があったという言い伝えがある。八幡宮へ通じるため、その鳥居か、この辺りの地名「神ケ」と関連があるか、定かではない。

※ ゆう・おおひとみ

2000年頃から分譲が始まった新興住宅地。その後、2002年大人見自治会から独立し自治会ができた。

※ 瞳ケ丘

1974年市営住宅と分譲宅地が完成し、1976年には自治会が発足。1989年には瀬人見団地も加わった。

39 向山 瞳ケ丘

昔、光勝寺付近が村の中心だった頃、村人が谷を隔てて見る向かいの山だった。太平洋戦争中は、軍隊が駐屯し防空壕が掘られていた。

A 如来坂 伊左地

台地に通じる狭く曲がりくねった坂。上には、善水寺が管理する如来堂がある。

B 昆沙門坂 伊左地

台地に通じる坂で、途中に昆沙門天が祀られている。昔は、南の篠原・神久呂の人々もここを通って奥山方面に向かった主要道路だった。

C 六地蔵坂 伊左地

伊左地川から南の台地に上がる関撃に利用する坂だった。登りロに六地蔵が祀られ、その後、他の石仏もあわせて、20体近くが祀ってある。

33 広沢通り 古人見

昭和初期、農家の次男三男のために行われた農地開墾の干拓地。その最大の功績者である古橋広吉さんを讃え、「広咲」と名付けられた。

千拓で土地が増えた！ 2つ進む

34 石佛 古人見

古人見の役人、瀬尾義左衛門は1714年に亡くなるが、よそ者のため墓地に入れず、千間山に石佛を作り葬った。戦後、現在の場所に移され石碑も建てられた。

35 瀬ケ平坂 古人見

昔、古人見の住宅は浜名湖畔に並んでいた。山の上の瀬ケ平にある畑まで、人々は農具を担いで狭い坂を登った。

36 宮井戸 古人見

昔、ツノサクヒコのご神体（船）を井戸で遊んでいた子どもを農夫が叱った。すると農夫は高熱に苦しみ、神主に拝んでもらうと、ツノサクヒコは子どもが大好きで遊んでいたという。又後、その井戸を宮井戸と呼んだ。ご神体は149年の大津波で荒井崎（湖西市）から流されて、若御子神社に合祀されたもの。

神様と遊べた！ 2つ進む

37 宮坂 古人見

両側から茂る大木で、昼なお暗くて急な坂であるが、大堂の平に上がる近道のため利用された。墓地に通じる道なので誰もが一度は通る道だった。

近道ができた！ 2つ進む

38 九武士坂 古人見

三方原合戦で逃げ延びた9人の武士が、坂の祠穴に身を隠したと伝えられる。近くには、鎧を脱ぎ捨てたと言われる鎧田もある。

穴に身を隠す！ 1回休み

31 おこり地蔵 古人見

谷津小瓦でのに女郎蔵が祀られていた（現在はブロックの土留め壁の中）。「おこり」とはマラリアの事。悪染した際、地蔵を縄で縛り、治ったら縄を解き茶子を供えた。

地蔵の御利益だ！ 2つ進む

32 堂の前通り 古人見

三方原合戦で13人を倒した6人の武士の塚のうち、最大の塚の上に方泉坊という小祠堂があり、御屋という家が祀っていた。この家に不幸が続いたためと言う。

30 十三塚通り 古人見

三方原合戦の際、この辺りで13人の武士とそれを追いかけて6人の武士が戦った所。東西に十三、南北に六つの塚があったため、十三六つ塚と呼ばれた。塚は残っていない。

戦いでけがをした！ 1つ戻る

※ 古人見

古代から「人見」の集落。江戸時代以前は「小人見」とも書かれ、大人見と対になる。縄文・古墳時代の遺跡もある。江戸時代「古人見村」。1889年伊・佐・見で合併し「伊佐見村」。1956年に和地村と合併し「湖東村」。1960年に「浜松市古人見町」。

G きっぱた坂 古人見

古人見の南端から雄踏町に通じる坂で、坂の上の集落を「きっぱた」とうつたえる名付けられた。「きっぱた」とは伽を切り開く切伽ではないかと言われている。

坂で転んだ！ 1つもどる

F 中央道路 古人見

伊佐見村古人見の時代に自衛隊に依頼して造られた坂。古人見にある3つの台地に通じる坂の真ん中で、町の中央にあるため名付けられた。

E 作の谷坂 古人見

古人見北側の台地を上り、大人見へ通じる坂。古人見には、作組・谷組・中組・西組・開拓の五集落があり、その中の作組の谷沿いの坂なので名付けられた。

＜愛称標識＞

愛称標識とは、歴史的ないわれのある道・坂・場所などの通り名や場所の愛称を記した標識です。地域の歴史的背景や特色を伝え、地域への親しみや関心を深めることが目的で設置されています。

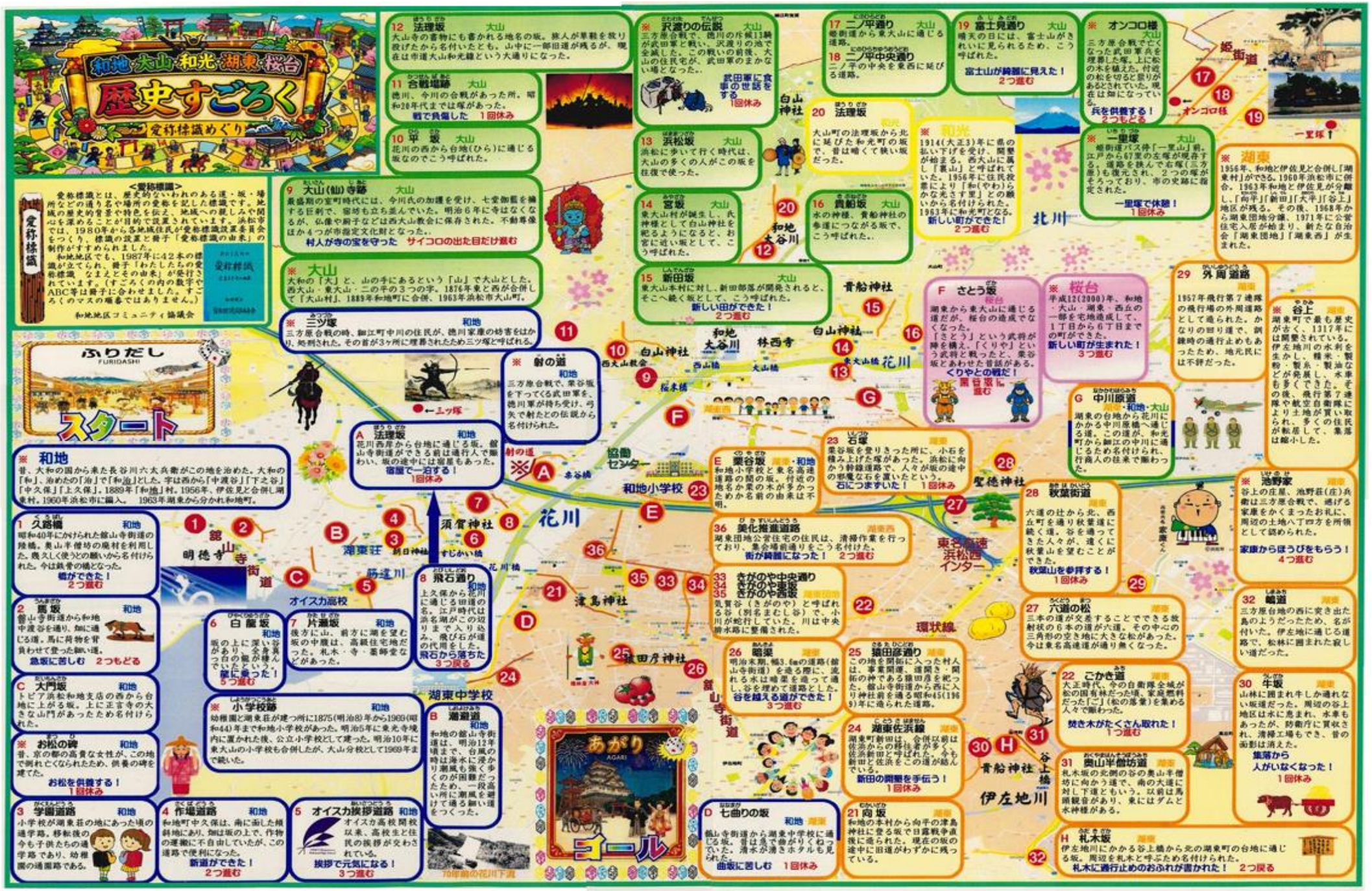
浜松市では、1980年から各地域住民による愛称標識設置委員会がつくられ、標識の設置と冊子制作がすすめられました。

伊佐見地区でも、1989年に47本の標識が立てられ、冊子「わたしたちの愛称標識　なまえとその由来」が発行されました。

すごろく内の、1～40は住民が、A～Cは浜松市が、それぞれ設置した愛称標識の番号・記号です。すごろくマスの順番ではありません。

わたしたちの 愛称標識 なまえとその由来 伊佐見地区 愛称標識設置委員会

伊佐見地区コミュニティ協議会・伊佐見地区自治会連合会


和地・大山・和光・湖東・桜台
歴史すごろく
愛称標識めぐり
<愛称標識>
愛称標識とは、歴史的ないわれのある道・坂・場所などの通り名や場所の愛称を記した標識です。地域の歴史的背景や特色を伝え、地域への親しみや関心を深めることが目的で設置されています。浜松市では、1980年から各地域住民が愛称標識設置委員会をつくり、標識の設置と冊子「愛称標識の由来」の制作がすすめられました。
和地地区でも、1987年に42本の標識が立てられ、冊子「わたしたちの愛称標識 なまえとその由来」が受行されています。(すごろくの内の数字やABC等は冊子に合わせました。すごろくのマスの順番ではありません。)
和地地区コミュニティ協議会
ふりだし
FURIDASHI
スタート
1 久路橋 和地
昭和40年にかけられた舘山寺街道の陸橋。奥山半僧坊の廃材を利用した。幾久しく使うとの願いから名付けられた。今は鉄骨の橋となった。
橋ができた！ 2つ進む
2 馬坂 和地
舘山寺街道から和地中渡谷を通り、畑に通じる道。馬に荷物を背負わせて登った細い道。
急坂に苦しむ 2つもどる
3 学園道路 和地
小学校が湖東荘の地にあった頃の通学路。移転後の今も子供たちの通学路であり、幼稚園の通園路である。
4 作場道路 和地
和地町中久保は、南に面した傾斜地にあり、畑は坂の上で、作物の運搬に不自由していたが、この道路で便利になった。
新道ができた！ 2つ進む
5 オイスカ挨拶道路 和地
オイスカ高校開校以来、高校生と住民の挨拶が交わされている。
挨拶で元気になる！ 3つ進む
6 白龍坂 和地
坂の上に深い谷があり、全身真っ白の龍が棲んでいたという。
龍に乗った！ 5つ進む
7 片瀬坂 和地
後方に山、前方に湖を望む坂の中腹は、高級住宅地だった。札木・寺・薬師堂などがあった。
8 飛石通り 和地
上久保から花川に通じる田道の名。江戸時代は浜名湖がこの辺りまで入り込み、飛び石が道の代用をした。
飛石から落ちた 3つ戻る
9 大山(仙)寺跡 大山
最盛期の室町時代には、今川氏の加護を受け、七堂伽藍を擁する巨刹で、宿坊も立ち並んでいた。明治6年に寺はなくなるが、仏像や厨子などは西大山教会に保存された。不動尊像ほか4つが市指定文化財となった。
村人が寺の宝を守った サイコロの出た目だけ進む
10 平坂 大山
花川の西から台地(ひら)に通じる坂なのでこう呼ばれた。
11 合戦場跡 大山
徳川、今川の合戦があった所。昭和20年代までは塚があった。
戦で負傷した 1回休み
12 法理坂 大山
大山寺の書物にも書かれる地名の坂。旅人が草鞋を放り投げたから名付いたとも。山中に一部旧道が残るが、現在は市道大山和光線という大通りになった。
13 浜松坂 大山
浜松に歩いて行く時代は、大山の多くの人がこの坂を往復で使った。
14 宮坂 大山
東大山村が誕生し、氏神様として白山神社を祀るようになると、お宮に近い坂として、こう呼ばれた。
15 新田坂 大山
東大山本村に対し、新田部落が開発されると、そこへ続く坂として、こう呼ばれた。
新しい田ができた！ 2つ進む
16 貴船坂 大山
水の神様、貴船神社の参道につながる坂で、こう呼ばれた。
17 二ノ平通り 大山
姫街道から東大山に通じる道路。
18 二ノ平中央通り
二ノ平の中央を東西に延びる道路。
19 富士見通り 大山
晴天の日には、富士山がきれいに見られるため、こう呼ばれた。
富士山が綺麗に見えた！ 2つ進む
20 法理坂 和光
大山町の法理坂から北に延びた和光町の坂で、昔は暗くて狭い坂だった。
21 向坂 湖東
和地の本村から向平の津島神社に登る坂で日露戦争直後に造られた。現在の坂の途中に旧道がわずかに残っている。
22 ごかき道 湖東
大正時代、今の自衛隊全域が松の国有林だった頃、家庭燃料だった「ご」(松の落葉)を集める人々で賑わった。
焚き木がたくさん取れた！ 1つ進む
23 石塚 湖東
栗谷坂を登りきった所に、小石を積み上げた塚があった。浜松に向かう幹線道路で、人々が坂の途中の邪魔な石を置いたという。
石につまずいた！ 1回休み
24 湖東佐浜線 湖東
湖東町新田は、合併以前は佐浜からの移住者が多く、佐浜新田と呼ばれた。今も新田と佐浜をこの道が結んでいる。
新田の開墾を手伝う！ 1回休み
25 猿田彦通り 湖東
この地を開拓に入った村人は、事業開運、道開き・開拓の神である猿田彦を祀った。舘山寺街道から西に入り神社前を通る昭和45(1969)年に造られた道路。
26 暗渠 湖東
明治末期、幅3.6mの道路(舘山寺街道)を造る際に、流れる水は暗渠を造って通し、谷を埋めて道路とした。
谷を越える道ができた！ 3つ進む
27 六道の松 湖東
三本の道が交差することでできる放射状の6本の道が六道。その中心の三角形の空き地に大きな松があった。今は東名高速道が通り無くなった。
28 秋葉街道 湖東
六道の辻から北、西丘町を通り秋葉道に続く道。谷を通ってきた人々が、遠くに秋葉山を望むことができた。
秋葉山を参拝する！ 1回休み
29 外周道路 湖東
1957年飛行第7連隊の飛行場の外周道路として造られた。かなりの回り道で、訓練時の通行止めもあったため、地元民には不評だった。
30 牛坂 湖東
山林に囲まれ牛しか通れない坂道だった。周辺の谷上地区は水に恵まれ、水車もあったが、防衛庁に買収され、清掃工場もでき、昔の面影は消えた。
集落から人がいなくなった！ 1回休み
31 奥山半僧坊道 湖東
札木坂の北側の谷の奥山半僧坊に向かう道で、南の大道に対し下道ともいう。以前は馬頭観音があり、東にはダムと水神様がある。
32 嶋道 湖東
三方原台地の西に突き出た島のようだったため、名が付いた。伊左地に通じる道路で、松林に囲まれた寂しい道だった。
33 きがのや中央通り
34 きがのや東坂
35 きがのや西坂 湖東西
気賀谷(きがのや)と呼ばれる谷(別名まむし谷)で、小川が蛇行していた。川は中央排水路に整備された。
36 美化推進道路 湖東西
湖東団地公営住宅の住民は、清掃作業を行っており、集会場前通りをこう名付けた。
街が綺麗になった！ 2つ進む
A 法理坂 和地
花川西岸から台地に通じる坂。舘山寺街道ができる前は通行人で賑わい、坂の途中には宿屋もあった。
宿屋で一泊する！ 1回休み
B 瀬避道 和地
和地の舘山寺街道は、明治12年頃まで、台風の時は海水に浸かり潮風も強く歩くのが困難だったため、一段高い所に潮風を避けて通る細い道をつくった。
C 大門坂 和地
トピア浜松和地支店の西から台地に上がる坂。上に正言寺の大きな山門があったため名付けられた。
D 七曲りの坂 和地 湖東
舘山寺街道から湖東中学校に通じる坂。昔は急で曲がりくねっていた。清水が湧きホタルも見られた。
曲坂に苦しむ 1回休み
E 栗谷坂 湖東・和地
和地小学校と東名高速道路の間の坂。付近の地名か栗の木が多かったためか名前の由来は不明。
F さとう坂 桜台
湖東から東大山に通じる道だが、桜台の造成でなくなった。
「さとう」という武将が陣を構え、「くりや」という武将と戦ったと、栗谷坂とあわせた昔話がある。
くりやとの戦だ！ 栗谷坂に進む
G 中川原道 湖東・和地・大山
湖東の台地から花川にかかる中川原橋へ通じる道。この道が、和光町から細江の中川に通じるため名付けられ、行商人の往来で賑わった。
H 札木坂 湖東
伊左地川にかかる谷上橋から北の湖東町の台地に通じる坂。周辺を札木と呼ぶため名付けられた。
札木に通行止めのおふれが書かれた！ 2つ戻る
※ 和地
昔、大和の国から来た長谷川六太兵衛がこの地を治めた。大和の「和」、治めたの「治」で「和治」とした。字は西から「中渡谷」「下之谷」「中久保」「上久保」。1889年「和地」村。1956年、伊佐見と合併し湖東村。1960年浜松市に編入。 1963年湖東から分かれ和地町。
※ 三ツ塚 和地
三方原合戦の時、細江町中川の住民が、徳川家康の妨害をはかり、処刑された。その首が3ヶ所に埋葬されたため三ツ塚と呼ばれる。
※ 射の道 和地
三方原合戦で、栗谷坂を下ってくる武田軍を、徳川軍が待ち受け、弓矢で射たとの伝説から名付けられた。
※ 小学校跡 和地
幼稚園と湖東荘が建つ所に1875(明治8)年から1969(昭和44)年まで和地小学校があった。明治5年に東光寺境内に置かれた後、公立小学校として建った。明治10年に東大山の小学校も合併したが、大山分校として1969年まで続いた。
※ 大山
大和の「大」と、山の手にあるという「山」で大山とした。西大山・東大山・二の平の3つの字。1876年東と西が合併して「大山村」、1889年和地町に合併、1963年浜松市大山町。
※ 射の道
※ 和光
1914(大正3)年に県の払い下げを受け、開墾が始まる。西大山に属し「裏山」と呼ばれていた。1956年に住民投票により「和(やわ)らかな光さす里」との願いから名付けられた。1963年に和光町となる。
新しい町ができた！ 2つ進む
※ 桜台
平成12(2000)年、和地・大山・湖東・西丘の一部を宅地造成して、1丁目から6丁目までの町ができた。
新しい町が生まれた！ 3つ進む
※ オンコロ様 大山
三方原合戦で亡くなった武田軍兵を埋葬した塚。上に松の木を植えた。付近の松を切ると祟りがあるとされていた。現在は畑になっている。
兵を供養する！ 2つもどる
※ 一里塚 大山
姫街道バス停「一里山」前。江戸から67里の左塚が現存する。道路を挟んで右塚(三方原)も復元され、2つの塚がそろっており、市の史跡に指定された。
一里塚で休憩！ 1回休み
※ 湖東
1956年、和地と伊佐見と合併し「湖東村」ができる。1960年浜松市に併合。1963年和地と伊佐見が分離し、「向平」「新田」「大平」「谷上」地区が残る。その後、1968年から湖東団地分譲、1971年に公営住宅入居が始まり、新たな自治会「湖東団地」「湖東西」が生まれた。
※ 谷上 湖東
湖東町で最も歴史が古く、1317年には開墾されている。伊左地川の水利を生かし、精米・製粉・製糸・製油などが発展し、水車も多くできた。その後、飛行第7連隊や航空自衛隊により土地が買い取られ、多くの住民が転居して、集落は縮小した。
※ 池野家 湖東
谷上の庄屋、池野荘(庄)兵衛は三方原合戦で、逃げる家康をかくまったお礼に、周辺の土地八丁四方を所領として認められた。
家康からほうびをもらう！ 4つ進む
※ 和地・大山・和光・湖東・桜台
歴史すごろく
愛称標識めぐり
ふりだし
FURIDASHI
スタート
舘山寺街道
明徳寺
オイスカ高校
湖東荘
筋違川
須賀神社
花川
津島神社
猿田彦神社
湖東中学校
和地小学校
協働センター
白山神社
和地大谷川
西大山教会
西山橋
大山橋
桜木橋
林西寺
東大山橋
貴船神社
東名高速浜松西インター
環状線
伊左地川
谷上橋
姫街道
オンコロ様
一里塚
北川
あがり
AGARI
ゴール
70年前の花川下流